

患者さんへ

この度、製薬会社から『アブラキサン点滴静注用 100mg』という抗がん剤の供給が暫く停止するとのお知らせがありました。この点の詳細については日本胃癌学会のホームページに、この製薬会社が医療者向けに配布した「アブラキサン点滴静注用 100mg 供給に関するお詫び」を掲載しておりますので、ご参照いただければと思います。

日本胃癌学会として、このことが胃癌の患者さんに及ぼす影響について見解を述べたいと思います。

胃がんの治療に使用される薬剤の1つにパクリタキセルという点滴で投与する抗がん剤があります。この薬は水に溶けにくいため特別な溶媒で溶かして使用されますが、この溶媒にはアルコールが含まれますので、お酒に弱い方やパクリタキセルの注射を受けた直後の車の運転は避けるなどの注意が必要です。また、この溶媒によるアレルギーが起きることがあるので、パクリタキセルを点滴する前に予防的に抗アレルギー作用を持つ薬の内服や点滴を行う必要があります。

一方、類似薬であるアブラキサンはパクリタキセルをアルブミンというタンパク質で包んだ薬であり、含まれる抗がん薬としてはパクリタキセルと同じですが、水に溶けやすく、溶かすための溶媒を必要としないので、アルコールを含まず、アレルギーも起こしにくいというメリットがあります。ですので、お酒に弱い方にも投与可能であり、点滴後に車の運転もできますし、抗アレルギー薬を必要としないので治療が短時間で終了します。

パクリタキセルには、長期間にわたって多くの患者さんを治療してきた歴史があり、多くのエビデンスがあるため、胃癌治療ガイドラインにおいても「推奨される」という評価を受けている薬剤です。これに対して新しく世に出たアブラキサンは、「条件付きで推奨される」との評価となっておりますが、両者はほぼ同等の効果があるのご理解ください。実際に胃がんの治療においては同一の用途およびタイミングでどちらかの薬が使用されているのが現状です。

従いまして、日本胃癌学会としては今回のような非常事態においてはアブラキサンをパクリタキセルに切り替えるのが最善の策であり、切り替えたために効果が落ちる可能性は低いと考えております。ただし、以上は一般論であり、主治医の先生

方は、個々の患者さんの体調を含め、様々な点を勘案しながら対応策を決められることと思いますので、しっかりと説明を受けられ、今後の治療について相談されることをお勧めします。

患者さんやご家族の方々におかれましては、今回のことについてはどうか過度に心配されることなく、主治医の先生とよくご相談ください。

令和3年8月

一般社団法人 日本胃癌学会

理事長 小寺 泰弘

ガイドライン作成委員会 薬物療法担当

理事 朴 成和

理事 室 圭